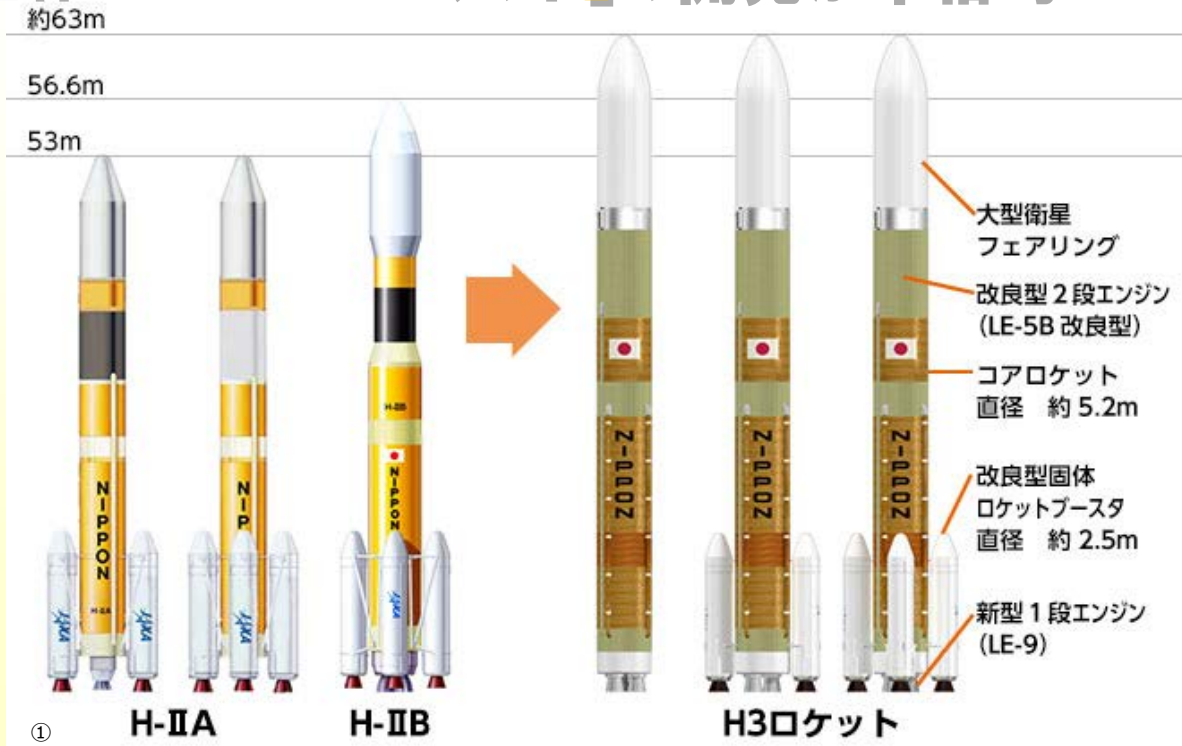


「世界中の人たちが使いたくなるロケット」を目指して 新型基幹ロケット「H3ロケット」の開発が本格的にスタート



「このたび」15号機ミッション

H-IIA, H-IIBとH3ロケットの比較図

これまでのロケット技術を集大成し、「価格・高い信頼性・柔軟なサービス」の3つの顧客の声に応える

現在開発中の新型基幹ロケットの機体名称が「H3ロケット」(エイチ・スリー・ロケット)に決定しました。

この名前とした主な理由は、

- ①日本がこれまで積み上げてきた大型液体ロケットの技術を受け継ぐので、その系譜を示す“H”を継承
 - ②H-IIA/H-IIB ロケットからコンセプトおよびシステムを根本から見直した新たなロケットなので、“H3”とする
- といった点からです。

これまでのロケット技術を集大成し、日本が持つさまざまな分野の技術を融合することで、「世界中の人たちが使いたくなるロケット」となるよう、2020年度の試験機1号機の打ち上げを目標にして、引き続き開発が進められる予定です。

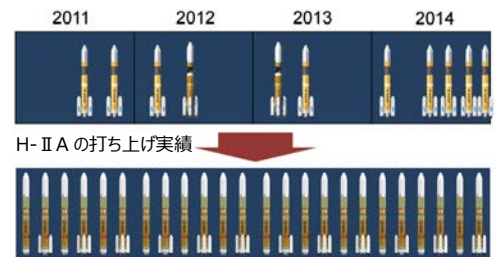
なぜ今、新型ロケットの開発が必要なの？

現在運用中のH-IIAロケットは2001年に試験機1号機が打ち上げられて以来、30機近くの運用経験と高い信頼性を培ってきたが、開発から長い時間が経ったことで、現在世界で主流になっている「人工衛星のサイズ」や「打ち上げ価格」とずれてきているとともに、開発を経験した技術者の高齢化が進み、日本のロケット開発技術の伝承が危ぶまれていた。

そこで、日本がこれからも自力でロケットを打ち上げられるよう、また、世界中の人から「使いたいロケット」として求められるよう、2014年度より新型基幹ロケットの開発することとなった。



② H3ロケットは、蓄積された技術の集大成



③ H3では年間の打ち上げ可能回数を大幅に増やす

「価格(コストを下げる)」については、今までの受注生産から一般工業製品のようなライン生産に近づけていくことや、自動車等で使われている部品を活用することなどで実現。

「高い信頼性」は、これまでのH-IIAロケットで培った技術を受け継ぐとともに、新たな第1段エンジン(LE-9)の開発に数値シミュレーションを活用した新しい手法を取り入れることなどで実現。

「柔軟なサービス」については、ロケット組み立て工程や、衛星のロケット搭載などの射場整備期間も、H-IIAロケットから大幅に短縮し、受注から打ち上げまでの期間を短くするとともに年間の打ち上げ可能機数を増やすことで実現する。

さらに詳しく知りたい方はコチラ

2020年：H3ロケットの目指す姿

http://fanfun.jaxa.jp/jaxatv/files/jaxatv_20150708_h3.pdf